

碩心

社団法人 日本詩吟学院 岳風会 認可
神奈川 碩心 会 発 行

13年 8月現在	会員数	13年 8月	(348号)
逗子地区	124名	発行者	千葉 岳 関
葉山地区	182名	編集者	白井 岳 麗
大船地区	24名		
(合計)	330名		

行事予定

- 横須賀第二地区吟道大会
日 時・9月23日(日) 9時30分開始
会 場・横須賀市はまゆう会館
- 役員(碩心会関係) 一敬称略一
実行副委員長・松井正岳
総務・加藤岳相、千葉岳関、中村岳愛
加藤岳洵、中村岳郵
受付・森 晴岳、根岸啓岳
連絡・金子憲風
進行・上村岳章、綱川岳邦、立澤岳晴
菊池祐岳、加藤美岳、広瀬晴岳
会 場・鈴木虎岳、田中明岳、福本辰岳
会 旗・一柳良岳
弁当・佐久間岳爽、星野輝岳
ミケル・鈴木江岳
記録・南湖収風
- 第112回全国吟道大会
日 時・11月4日(日)
会 場・東京国際フォーラム
- 逗子吟舞連盟発表大会
日 程・11月18日(日) 逗子図書館ホール

昇伝認許

(平成13年7月1日付)

- 169 草柳武岳 (皆伝 13名) 168 大塚寛岳 167 朝比奈泰岳
- 166 梅津祥岳 165 大前智岳 164 江原一岳
- 163 石黒恵岳 162 徳本華岳 161 押山照岳
- 160 高橋之岳 159 中村豊岳 158 岡野和岳
- 154 西山蓉岳 (九段 9名)
- 122 大作愛岳 (おさく) 121 依田清岳 120 飛田智岳
- 118 金子輝岳 116 西川幸岳 115 大山政岳
- 114 斎藤和岳 113 市川邦岳 112 安田好岳
- (十段 5名)
- 84 加藤美岳 83 西岡清岳 82 伊藤峰岳
- 81 星野輝岳 80 菊池祐岳
- (総伝 6名)
- 51 西岡岳江 50 沼田岳静 49 矢島岳建
- 48 安田岳聡 47 長島岳芳 45 沼田岳詠
- (正師範 2名) (7月1日認許)
- 13 沼田岳義 15 上村岳章
- おめでとうございます。
- 葉山町森山神社 和歌献詠の儀
8月26日(日)の例祭に詠進された和歌八首を
氏子の碩心会会員により献詠いたします。

「椰子の実」の詩が作られた経緯

朝日新聞より

豆子A 松井正岳

「挑戦14年や」と詩を再現」

「遠き島より：ヤシの実一つ」

石垣島、舞台の愛知、渥美町

「名も知らぬ 遠き島より流れ寄る 椰子の実一つ」の島崎藤村の詩を再現しようと、沖縄県石垣島沖から流されたヤシの実が、詩の舞台となった愛知県渥美町の伊良湖岬の恋路ヶ浜から約八キロ東の海岸に漂着した。

民俗学者の柳田国男は1898年の夏、伊良湖岬でヤシの実を見つけた。島崎は柳田から話を聞き「椰子の実」の詩を作った。

渥美町はその逸話を基に石垣島を「遠き島」に見立て、88年にヤシの実流しを始めた。

石垣島から恋路ヶ浜まで1600キロ。時速平均五キロの黒潮にうまく乗れば、一ヶ月もかからずに流れ着く計算で、渥美町観光協会が計1589個を流し続けたがうまくいかなかった。8月3日昼、海水浴をしていた高校生から「岩場でヤシの実を見つけた」と協会に連絡が入り、協会で目印の金属プレートを確認、石垣島から流した94個の一つと認めた。

夏季吟道講座に参加して

豆子A 植村成風

7月15日(日)梅雨だというのに真夏の様な暑さの中、豆子図書館ホールに於て夏季吟道講座が開講されました。ホールの座席が満席になる程の多数の会員の方々が参加されました。9時30分、時間通り開講式が始まり、会長、千葉岳関先生の挨拶、そして講師の先生方の紹介がありました。

そしていよいよ第一時限目は中村岳郵先生の「自然と人生」の講義、静かな口調で徳富蘆花の生い立ちや、新体詩との違い等をお話下さいました。

第二時限目は松井正岳先生による「小楠公」すばらしい韻読を含め、感動の50分でした。

11時40分から昼食の時間を割いて高段者の許証授与がありました。中にはとても高齢の方もおり、皆頑張っているんだなと思えました。

昼食の後、第三時限は中村岳愛先生が俳句芭蕉「奥の細道に詠まれた句」についての講義をされましたが、先生の体調が思わしくな

く、途中で退場されてしまいました。具合が悪いのに一生懸命で講義をしていただきましたことは大変感謝しております。

気を取り直して第四時限目は、加藤岳先生の「青山の歌」「山ざくら」そして「中国を巡りて」についての吟じ方、素読と同じ発音の方法等の講義をしていただきました。

第五時限目は加藤岳相先生が、「爾靈山」と「大楠公」の結句が、節調の形の違によっていつ母音に返すかという問題について熱弁を振るわれました。この講義を聞き今まで大ざっぱにしか見ていなかった吟符が、こんなにも細かく分けられていたことに驚き、詩吟の難しさを改めて感じました。

第六時限目は会長の千葉岳関先生直々に、「前兵児の謡」を講義していただきました。

漢詩の通釈をまるで目に浮かぶように面白おかしくお話ししていただき、大変楽しく受講できました。

16時10分、予定通りすべての先生方の講義を終え、閉講式を迎えました。今日一日それぞれの先生方のすばらしい講義を受け、吟の新しい見方を発見したような気がしました。本当にありがとうございました。

努力のたまもの

連吟コンクール優勝と三位入賞

悠吟 小野 祥 岳

悠吟支部は碩心会会長千葉岳関先生から直接ご指導を受けている、会員15名の小さいけれど明るく楽しい教室です。

その悠吟支部が6月24日に行われた第23回碩心会吟道温習会に於て、連吟コンクールに優勝と三位入賞の快挙を成し遂げ、一躍支部の名を有名にしてくれました。

熱心にご指導されている千葉先生もことのほかお喜びで、「吟界の歴史的にも驚きの一言につきる」と次の祝歌を下さいました。

★優勝は努力のあとにきたるもの

欲をば捨てて吟魂に酔う (優勝組)

★優勝はすぐ目の前ぞ励みなん

目指す吟者は間近かにぞいる (三位組)

支部の練習は吟道精神の朗読にはじまり、碩心会の詩などで声ならしをした上、先生のお話と模範吟のあとにそれぞれの吟を練習。コンクール等がある時は出吟者はそれを優先的に練習し、これを機に全員が努力、練習を重ねることにより優勝も夢ではないことを知り、一層勉強に励みます。悠吟支部万歳。

第9回神奈川地区吟道大会

合吟コンクール優勝

去る7月8日(日)、相模原市民会館に於て第9回神奈川地区吟道大会が開催されました。

碩心会は合吟男女一組づつと、合吟コンクール一チーム、構成吟三題に出演しました。合吟コンクールでは優勝の栄誉に輝きました。左記は合吟コンクール出場者の喜びのコメントです。(プログラム順)

真澄 森 晴岳

松井、村田両先生の熱心なご指導と、全員の気持ちが一つになって気負いがなかったのが良かった。優勝の感激ひとしおです。

真澄 小金智岳

楽な気持ちで出来たのと、先生方のご指導が素晴らしかったことの結果だと思えます。

真澄 佐藤由岳

先生方のご指導の賜物です。一生懸命やっただけが実を結んで嬉しい。

真澄 高橋之岳

いい勉強になりました。教室の違う皆さんと気持ちが一つになれたことが有意義でした。ありがとうございます。

逗子A 村井知岳

5年ぶりの優勝で感無量です。長いトンネルを抜け出て日の光りを見た気分です。

逗子A 金子憲風

他の教室の方々と交流もでき、なお一層勉強しなくてはと思います。

真澄 嶋津幸岳

みんなの一生懸命さに自分も乗せていただきました。ありがとうございます。

逗子A 菊池君山

松井、村田両先生のご指導と、先輩達のお力で優勝経験をさせていただき感無量です。

逗子A 森 映岳

先生方のご指導と、猛暑の中での練習が実に大変嬉しい。ありがとうございます。

幸和 福田喜山

初めて参加して皆さんの足を引っ張らないようにと大変緊張しました。

コンクール優勝おめでとうございます。

毎週金曜日に流した汗と、松井正岳、村田岳瀨両先生の熱意が優勝に結びついたと思います。早朝から開演時間の遅れや苦労もありましたが、コンクール碩心会優勝の一言で全部吹っ飛んでしまいました。

(磯村)

総伝を認許されて

堀内E 西岡 岳 江

数年前、病にたおれ不自由な身体になり、外出することもままならなくなった今、歴史をしのび、人の心を知る詩吟に一層興味を持ち楽しんでいきます。

嫁の清岳の手助けを受け先生のご指導を受け、皆伝会にも出させていただきました。

詩吟を始めて20数年、思い返しますと、最初堀内Cとして小峰先生に教えを受け、その後堀内Eに移り、今は亡き白井寿岳先生と岳麗先生お二方に励ましてご指導を受けて今日にいたりました。

総伝の授与のお知らせをいただいた時、突然のことに驚き、知らず知らずのうちここまで来たかという達成感と感激で一杯でした。白井先生にお世話になりました孫4人にも胸を張って報告できます。

84歳にして総伝のお許しを頂戴できましたことを心より喜び、それと同時にその重責に身の引き締まる思いがします。

今回総伝を戴いたのを一つの契機として初心に戻り、一層の努力をしたいと思えます。

皆伝の許証を手にして

逗子A 草柳 武 岳

先ず、岳風流の一応の線に達したと認めていただきたことを感謝いたします。

後続の方に、

私の吟について、好きで始め、良き師、良き仲間、健康、経済その他諸々の障害を凌いで手にした許証です。この日まで15年、それだけ感慨深く、今その達成感に浸っています。悪くないですよ。

先輩の方に、

これからは聞くに堪える吟、敢えて申しますと人に感動をもって聞いてもらえる吟に励みたいと思えます。

戴きたての皆伝に心浮き立つまま、大きなことを申しました。ご寛容ください。

以前、松井岳洋先生がおっしゃった言葉に「この年になってつくづく思うが、詩吟をやっけてきて良かった」と。

私も実感としてそう思うこの頃であります。

俳句

逗子B 磯村 岳 朋

旅人も桜桃おうとういろの湯の煙

さくらんぼ幾房を喰たぶ吟行会

露天の湯風も優やさしく湯かたばら

退会 (7月1日付)

250 日比恵風(東伏見) 352 倉林邦子(下山口)

退会 (8月1日付)

258 植村粹風(逗子A)

349 井上 清(堀内E 死去)

編集後記

夏休みも終り、早速秋季審査会が目前となり皆様の準備も出来ていることと思えます。

夏の最後を飾る鎌倉八幡宮の「ぼんぼりまつり」に、一人でぶらっと見物に行きました。日本舞踊の奉納舞を見て、石段を登り、上から眺めたとき、ぼんぼりがこれ程きれいとは思いませんでした。静の舞殿をかこみ若宮の方まで両側に並んだ灯に幻想の世界に引き込まれました。9時の灯を消す作業を後にして帰りましたが、昨年と違っていたのは小泉総理のお顔が写し出されたぼんぼりの前の人ばかりで、今の時節を反映していました。